

昭和大学藤が丘病院 40 周年記念誌

薬局

薬局長 向後麻里

歩み

この 10 年、4 代目齋藤正志薬局長、5 代目竹ノ内敏孝薬局長のもと、積極的な業務展開を実施するとともに薬物治療の質の向上と医薬品の安全性の向上に努めてきました。2004 年の安全管理室の設置に伴い、専任薬剤師を配置し、医薬品の安全管理システムの構築や医薬品安全管理マニュアルの作成、院内ラウンド、職員教育など医薬品の安全管理に取り組みました。その後、感染管理室に専任薬剤師を配置し、広域抗菌薬や抗 MRSA 薬の届出制の導入、予防抗菌薬のマニュアルの作成、ICT ラウンド、職員教育など抗菌薬の適正化に貢献してきました。

がん患者の登録制度や抗がん薬レジメンの登録制度の導入に伴い、2005 年より薬剤師による抗がん薬の無菌混合調製を開始しました。これを機に、抗がん薬のレジメン監査システムを独自に開発し、適正な抗がん薬の管理に貢献しました。同時に、アンプルピッカーによる注射薬の個人セットや手術室における麻酔薬の個人セットを開始し、抗がん薬や麻酔薬などの医薬品の安全管理を推進しました。

2007 年には医薬品の管理を SPD 業者へ委託することで業務の効率化、省スペース化、適正な在庫管理を推進し、薬剤師は、第 1・2・3 種向精神薬、麻薬、毒薬、放射性医薬品、救急カートの管理など特別な管理を要する医薬品の管理業務を強化しました。

2008 年には統括薬剤部を設置し、初代統括薬剤部長に村山純一郎先生が就任しました。8 つの附属病院において調製業務や病棟業務、医薬品集の作成、持参薬の確認業務など薬剤師業務を統一化・標準化し、業務の効率化を推進しました。

2010 年には病院薬剤学講座を設置し、薬剤師の教員制度を開始しました。実習生の指導人数は急激に増加し、藤が丘病院薬局では年間約 300 人の実習生を指導しています。その他、教育カリキュラムの構築に携わるとともに、毎週、研究セミナーを実施するなど日々研鑽を積んでいます。同時に、薬剤師レジデント制度が開始となり、初年度は僅か 8 人でしたが、現在は 38 人に増加しました。統括薬剤部で運営することで薬学部 1 年から切れ目のない段階的かつ体系的な臨床教育プログラムの構築が可能となり、計 50 人がプログラムを修了しました。

2012 年には診療報酬に病棟薬剤業務実施加算 が新設され、高度急性期病棟（救命、ICU・CCU、EIU、NICU・GCU）へ薬剤師を配置し、全病棟における薬剤師常駐化を可能としました。適正な薬物治療の実践とチーム医療の推進に積極的に取り組むことにより入院患者に対する病棟薬剤師の介入数は 15417 人（77%、26 年度）となりました。また、

病棟業務の拡大とともに、褥瘡チームや NST 緩和ケアチームにも参加し、積極的にチーム医療の推進に取り組んでいます。

様々な業務展開や制度の導入に伴い、10 年間で多くの薬剤師が専門・認定薬剤師の資格を取得しました。日本医療薬学会指導薬剤師 2 人、同認定薬剤師 3 人、日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 4 人、感染制御専門薬剤師 2 人、感染制御認定薬剤師 2 人、抗菌化学療法認定薬剤師 4 人、認定実務実習指導薬剤師 10 人、研修認定薬剤師 15 人、小児薬物療法認定薬剤師 1 人、日本臨床薬理学会認定 CRO1 人、栄養サポートチーム専門療法認定 2 人。

最近の取り組みと展望

剤過誤防止対策の一つとして、バーコードおよび重量測定を用いた医薬品安全適正管理システム(McHIL)を Mediceo Medical と共同で開発しました。本システムの導入によりヒヤリハット件数を大幅に抑制し、医療安全の向上に貢献しました〔システム導入前後の注射薬ヒヤリハット件数(半年) 162 件 (0.15%) vs 0 件 (0%)]。また、2014 年の診療報酬改定に伴い、後発医薬品の導積極的に推進しました。採用薬品を薬学的および経済的に評価することで後発医薬品使用率は 78% (平成 27 年 7 月) まで上昇し、医薬品費の抑制に大きく貢献しました。さらに、災害拠点病院の取得に伴い、薬剤師会と連携し、災害時の組織やトリアージの支援、医薬品の供給などの体制を整備し、災害対策を強化しました。

今後は、2014 年の薬剤師法改正に伴い、外来・入院患者の薬物治療に関する薬学的管理を中心にさらなる業務展開を検討しています。多職種と連携・協力しながら、特にがん薬物治療の管理や周術期や感染症の管理、高度急性期医療へ積極的に関与してまいります。研究面においては、薬物治療の効果や副作用の評価に関する研究や薬剤経済に関する研究、薬物治療ガイドラインの作成に関わる研究など薬物治療に関する臨床的エビデンスを積極的に提供するとともに、次世代を担う人材を育成する研究教育体制を確立してまいります。また、教育面においては、薬剤師としての高度な臨床能力や指導能力を修得することで、将来の指導者として積極的に医療に貢献できる薬剤師を育成してまいります。